

授業科目等の概要

(教育・社会福祉分野 専門課程 こども環境科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ホームルーム活動	各種オリエンテーション、クラス活動を行う。	1・2通	60	2		○		○	○	○		
2	○			自然体験活動	シェアリングネイチャーの理念を学び、五感を使ったアクティビティを体験する。 また、アクティビティの指導計画、すなわちフィールドKYTを通して、ペア学生に自然との出会いを促すことを目的とした計画を作成し、実践する機会をもつ。	1後	30	2		○		○	○	○		
3		○		自然と環境	釧路の自然の概要を知る(火山・丘陵・湿原・湖沼・河川・海岸線・多様な生物群) 近辺のフィールドに出て、多様な生物群にふれ、保育士としての役割を考える。 フィールドにおけるリスクマネジメントを知る。	1前	30	2	○			○	○	○		
4	○			社会学	自己からスタートし、ジェンダー、人種差別について理解を深め、ジェンダー・ステレオタイプにとらわれない絵本をつくり発表する。 社会学の手法である社会調査について学び、グループでデータを取り、分析した結果を発表する。	2後	30	2	○			○		○		
5		○		国語	「読む」「書く」「話す・聞く」の学習を具体的な演習を通して学び、国語力の総合的な向上を図りながら日常の言語活動に生きて働くものとする。 学びにおける相互コミュニケーションの場を設定し実生活につなげる学びの展開。	1前	30	2	○			○			○	
6	○			音楽	前期:基本的な楽典を理解し楽譜に慣れると共に、歌唱を中心とする技術や表現のあり方を身につける。 後期:さらに発展的な楽曲を学び、様々な楽器の演奏も加えて、より実践的な学習を行う。	1通	60	2		○		○		○		
7	○			図画工作	絵の具やクレヨンなどの画材を使って小作品を制作しながら、基本的な使用法や変わった技法を理解する。 それぞれの材料・道具のコツやこどもが使う際の配慮などを、随時制作の場面で理解する。	1通	60	2		○		○		○		
8	○			体育	「運動のしくみ」に対する理解を深め、様々なスポーツの基本的な技能・技術の習得に努め、スポーツの楽しさを味わう。 安全に十分配慮し、事故防止を踏まえた環境づくりを心がける。	2通	60	2		○		○		○		
9		○		生活	生活科教育が生まれた背景やその概要を学ぶ。 小学校低学年における児童の姿をイメージしながら、ものづくり・栽培活動など具体的な体験活動を通して実践的に学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	

10	○		保育内容の指導法(健康)	幼児期の子どもたちの健康な心と体を理解すると同時に、子どもの主体的な学びを通して育むことの重要性を実践的に理解する。講義を主に実技体験やグループワーク、発表を通し、保育現場や子どもたちの様子を具体的に捉える。	2後	30	2	○	○	○								
11	○		保育内容の指導法(人間関係)	領域「人間関係」のねらい・内容を踏まえた指導法の在り方を学ぶのと並行し、子ども主体の保育・非認知能力を育てる保育を行う視点を学ぶ。総合的な保育が行えるよう、演習を通して実践的に学ぶ。	2前	30	2	○	○	○	○	○	○	○				
12	○		保育内容の指導法(環境)	幼稚園・保育所保育の基本として環境を通じた教育・保育から出発し、身近な環境としての物、自然、動物に自身が関わる体験をし、子どもがそれらに好奇心や探求心をもって関わるために必要な環境設定を考える。体験を踏まえて保育の指導計画を立て、実践し、振り返る。具体的には動物園の見学、文化や伝統に親しむことをねらいとした疑似保育を実践する。	1後	30	2	○	○	○	○	○	○					
13	○		保育内容の指導法(言葉)	言葉の意義や機能を理解し、言葉の発達過程を様々な視点から捉えながら保育へ生かす指導法を学ぶ。子どもが言葉による表現の楽しさを深められるよう、言葉遊びや絵本、紙芝居など様々な児童文化財の読み聞かせ方・演じ方を習得し活用できるようにする。	1後	30	2	○	○	○								
14	○		保育内容の指導法(表現)	表現者としての目的(色々な対象、状況、場面を想定)に見合った姿勢や向き合い方、声の出し方や表情、仕草や動作を実践するとともに、振り返りから工夫・研究することを学ぶ。生活や行事、自然に関係するうたや言葉などを学び、それに関わる小物・小道具をつくり、実践に結びつける。教科書や資料(階名譜・リズム譜)の使い方を理解し、自ら用いて活動できるようになる。実習・発表などの実践を通し、①計画・立案、②報告・発表、③評価の実際について学ぶ。	2前	30	2	○	○	○								
15	○		保育内容総論	教科書、演習、教育・保育実習を通し、児の姿をイメージしながら幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を理解する。	1前	30	2	○	○	○								
16	○		教育原理	教育とは何か、ケアとの関連性から出発し、教育の要素であるこども、教師、学校について学ぶとともに、幼児教育の思想や教育制度において教育の理念がどのように現れているか理解する。また、現代の教育課題である幼保一元化や生涯学習時代について学ぶ。	1前	30	2	○	○	○								
17	○		教職概論	教員の職務・身分について概観し、職務の具体例として子ども理解、子どもの指導、家庭との連携、学級経営、校務を学ぶ。教職の職場としての幼稚園・幼保連携型認定こども園の実際を学び、省察や研修による資質・能力の向上の必要性を理解する。	2後	30	2	○	○	○								
18	○		教育社会学	学校等において「問題」とされるいじめ、不登校の状況を理解し、教育の社会的事項として、情報化社会、男女共同参画社会、子どもの貧困、グローバル社会について知る。学校安全への対応では、学校内外の事故の状況を概観し、小学区の安全マップを作成する。地域と学校の連携の形としてコミュニティスクールについて学ぶ。	2後	30	2	○	○	○	○	○	○					

19	○		発達心理学	子どもは様々な環境との相互作用で発達すること、及びそれまでの経験をもとにして環境に働きかけ、さらに新しい体験を積み重ねることで発達することを理解する。 出生してから小学生までの子どもがどのように発達するかを体と心(精神)について知り、どのように関わる必要があるかを理解するとともに自分たちで課題追究する。	1 前	30	2	○		○		○		
20	○		教育心理学	子どもの育ちや学び、及びやる気を引き出しながら学ばせる教育方法を知る。 子どもの能力や個性・特性の理解と評価方法を知る。 クラス運営における心理的知見を持つ。 家庭への教育的支援や幼・保・小連携を学ぶ。	2 前	30	2	○		○		○		
21	○		特別の支援を必要とする幼児に対する理解	特別な支援を必要とする幼児・児童に対する必要な人間観や障害観を学び、特性及び心身の発達を理解する。また、保育・教育課程や関連機関との関りや支援の方法を理解する。その他の特別な教育的ニーズのある幼児や児童の保育や、生活上の困難とその対応を理解する。	1 前	30	2	○		○	○	○		
22	○		幼児教育課程総論	保育の基本からみた教育課程、全体的な計画の意義、教育課程にかかる法制度、編成・作成の方法を理解し、指導計画の作成・実践・振り返りを行う。 カリキュラム・マネジメントを行う意義を知り、教育評価の方法や教育課程、全体的な計画の改善例を学ぶ。	2 前	30	2	○		○		○		
23	○		保育原理	保育という言葉から始まり、子ども家庭福祉及び子ども・子育て支援新制度等保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本を理解する。 保育の現状と課題について考察し、保育の思想と歴史を学ぶ。	1 前	30	2	○		○		○		
24	○		子ども家庭福祉	グループワークやゲストによる経験談など子ども家庭福祉についてリアリティを感じる話題や教材について議論する。 子ども家庭福祉に関する基礎的な知識を得ると同時に、理解するための土台(身近なことを自分のこととして、考える、想像する、人の話を聞くなど)を養う。	1 後	30	2	○		○		○	○	
25	○		社会福祉概論	グループワークやゲストによる経験談など社会福祉についてリアリティを感じる話題や教材について議論する。 社会福祉に関する基礎的な知識を得ると同時に、理解するための土台(身近なことを自分のこととして、考える、想像する、人の話を聞くなど)を養う。	1 前	30	2	○		○		○	○	
26	○		地域福祉論	児童福祉と関連させ、地域福祉の意義・目的・現状と課題を理解する。 職場見学や職員による講話から地域福祉の理解を深める。 地域住民として、福祉コミュニティの形成を構想する。	2 後	30	2	○				○	○	○
27	○		社会的養護 I	基本的にはテキストに沿いながら学習するが、子どもに関わる事件や事故等の情報があった場合には、できるだけ共有し、本質的な理解につなげていく。 映像教材なども利用しながら、並行して社会的養護の実践をイメージできるようにする。	1 前	30	2	○		○		○		
28	○		子ども家庭支援論	子育て家庭の現状を通して子ども家庭支援の意義と役割を学ぶ。 保育士による子ども家庭支援の基本、子育て家庭に対する支援体制を理解し、事例をもとに多様な支援の展開と関係機関との連携を知る。	2 前	30	2	○		○		○		

29	○		子ども家庭支援の心理学	生涯発達の過程をもとに、家族・家庭の意義や機能、家族関係や親子関係、親としての育ち、親のライフコース、仕事と子育ての両立を支援する施策等について知る。 あわせて、子どもの生育環境や精神保健について考察する。	2 後	30	2	○		○		○	
30	○		子どもの保健	保育のおかれている現状に興味・関心を寄せ、広い視野でこどもの健康な発育・発達について理解を深める。 グループワークでの事例検討において互いの意見を交換し、実践につながる知識を習得する。	1 後	30	2	○		○		○	
31	○		子どもの食と栄養	乳幼児が、心身ともに健やかな発育・発達をするための栄養と食生活全般に関する基礎知識と、現場での実践法を、合わせて習得する。 離乳食、幼児食、栄養バランスと料理などについて、調理実習を通して、体験する。 「食を営む力」は、子どもだけでなく、保育者自身の生活の質を左右する重要事項であり、社会人としての自覚を養う上でも、自分事として食の問題を捉える。	1 後	60	2	○		○		○	
32	○		教育方法学	保育の基本と保育方法、幼児理解と方法、環境の構成と保育の展開、一人一人に応じた指導、保育の質の評価、遊びの指導などの基礎的事項を学習する。 保育の方法や幼児理解、実際の子どもの生活や遊び、行事・幼保連携などについて知る。 現在の幼児教育のキーワードや課題、生活、行事、小学校との連携、指導形態を知る。 情報機器を使った教材の作成と活用の実際を学ぶ。	2 後	30	2	○		○		○	
33	○		こども理解	こども理解が必要とされる背景、こども理解のための保育者の態度をもとに、子どもを理解する視点、子どもを理解する方法を事例を通して学ぶ。 こども理解に基づいて指導計画を作成、修正し、その内容をグループワークで論議する。	1 後	30	2	○		○		○	
34	○		教育相談・育児相談	子どもの特徴やニーズと発達理解のための理論と方法を学習する。 教育相談の理論・技法の学習では、体験を重視し、体験を振り返ることで自らのコミュニケーションの特徴に気づき、教育相談に行かせることを理解する。 保育・教育現場で生じやすい事例について、ロールプレイやディスカッションを用いて学習する。	2 後	30	2	○		○		○	○
35	○		保育基礎演習	幼稚園・保育園訪問を中核として、幼児向けの企画等を実践的に学ぶ。(フレンド系列の幼稚園を訪問)	1 通	60	2	○		○	○	○	○
36	○		子どもの健康と安全	保育のおかれている現状に興味・関心を寄せ、広い視野でこどもの健康な発育・発達について理解を深める。 保育の現場で起こり得る具体的な状況(事例)から、その対処法を学び、知識に裏付けながら身につける。 チームの一員として役割を發揮できるよう、保育の専門職としての自覚を高める。	2 前	30	1	○		○		○	
37	○		乳児保育 I	3歳未満児の保育について保育の内容や運営体制に着目して学ぶ。 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等、乳児保育の現状と課題、乳児保育における連携について学ぶ。	1 後	30	2	○		○		○	

38	○		乳児保育Ⅱ	「乳児保育Ⅰ」の発展科目として、乳児保育の基本にもとづき、演習課題で実践に役立つ知識や考え方を養う。グループ討議や演習を通して3歳未満児の子どもの生活や遊び及び環境について具体的に学ぶ。	2 前	30	1	○	○	○			
39	○		子育て支援	子育て支援について、その基本となる理論と方法及び心構えを学ぶ。 子どもや支援を必要とする家庭を理解するために必要な技術を学ぶ。 相談事例の検討を通して、子育て支援を実践的に学ぶ。	2 前	30	2	○	○	○	○	○	
40	○		社会的養護Ⅱ	テキストによる事例や実際の支援計画などを参考にしながら、演習によってさらに社会的養護の理解を深める。	2 後	30	1	○	○	○	○	○	
41	○		保育内容の理解と方法Ⅰ	ピアノの弾き歌いやコード奏法を学ぶとともに、保育現場で使われる様々な楽器にふれ、その奏法と指導法を学ぶ。 身近な素材を使ったアンサンブルや手作り楽器を用いた遊びを工夫し、音楽的感性を磨く。 模擬保育を通して、実習に向けての準備を進める。	2 前	30	2	○	○	○	○	○	
42	○		保育内容の理解と方法Ⅱ	共同制作や造形遊びなどの様々な造形活動を通して、その楽しさとこどもとの関わりを考える。 課題作品の制作を通して自己の表現について深めるとともに、展示し鑑賞してもらうための仕上げや装丁について考える。	2 前	30	2	○	○	○	○	○	
43	○		器楽演奏法Ⅰ	「大学ピアノ教本」及び「こどものうた200」を中心に、自分の能力に応じて曲を選択し演奏に取り組む。 進度に応じて弾き歌いを行う。	1 通	60	2	○	○	○	○	○	
44	○		器楽演奏法Ⅱ	前年度学んだピアノの演奏技術をさらに発展させながら、弾き歌いを修得し、より高度な音楽表現技術を身につける。 「大学ピアノ教本」及び「こどものうた200」を中心に、自分のレベルに応じたピアノ曲の演奏に取り組む。	2 通	60	2	○	○	○	○	○	
45	○		ムーブメント教育・療法	子どもの発達とそれを支援するムーブメント教育・療法の基礎的理論を学ぶ。 MEPA-Rを用いて実際に幼児の発達アセスメントと分析を行い、それに基づき、グループに分かれてムーブメントプログラムを立案し、実践する。 実践を振り返り、プログラムの改善に取り組む。 様々な遊具の活用方法を考え、実践する。	1 後	40	2	○	○	○	○	○	
46	○		児童文化論	昔話や童話、様々な種類の絵本など多くの児童文学に関する知識を深め、子どもが絵本や物語に親しめるように保育生活の中で身近に活用するための方法を考える。 昔から受け継がれる子どもの文化に触れ、実際に体験することで、子どもの文化をより豊かにするための技術を学ぶ。	2 後	30	2	○	○	○	○	○	
47	○		こどもの遊びと文化Ⅰ	前半はさまざまな遊びを演習する。屋内での遊び、身体を使った遊び、つくる遊び、道具を使った遊びというジャンルで遊びを経験する。各回さまざまな遊びを紹介し、それを演習して考察を深めるサイクルで実施する。 後半では、実際に森に行き遊びを体験し、実態に触れて考察を深めていくとともに、グループにて遊びを創り上げていく。	1 前	30	2	○	○	○	○	○	

48	○	こどもの遊びと文化Ⅱ	おもちゃや絵本などの実演で保育の実践力を高めるとともに、複数での共同制作に取り組む。 人形劇などの大がかりな児童文化財を作り上げる過程を通して、作る力だけでなくマネジメントの必要性はもちろん、自分以外の工夫の視点のあり方、多様性も学ぶ。	1 後	30	2	○	○	○	○
49	○	幼稚園教育実習	子どもの発達を復習しながら実習のポイントを理解する。 部分実習に向けて、廃材を使った製作遊びの教材研究、指導案作成、模擬保育を行う。 実習生に期待することや実習要項を学び、実習への不安を共有する。 実習(見学実習、参加実習、責任実習)後、振り返りを行い、幼稚園の多様性を学ぶ。 報告会で実習の成果を発表する。	2 前	225	5	○	○	○	○
60	○	教職実践演習(幼稚園)	履修カルテの作成を通して、自己の学習課題を明確化し、幼児教育施設としての環境からの学びを幼稚園教育実習での経験を通して理解する。 現場の教諭、園長の話や幼稚園見学を通して、教職の使命感、責任感を意識し、幼児理解、クラス経営の視点や留意点を学ぶ。 児童文化財としての絵本を題材に、表現領域と言葉領域を関連させて実践を計画し、発表し(実践)、振り返る。	2 後	60	2	○	○	○	○
51	○	保育実習ⅠA	学校内での学びを基礎として、保育所の役割と機能の理解、子どもの理解、保育内容の理解及び専門職としての保育士の理解を目的に学外での実習に取り組む。 日々の課題を明確にしなが、観察実習、参加実習、日誌への記録及び考察を行う。	1 後	90	2	○	○	○	○
52	○	保育実習ⅠB	観察を通して、施設の役割と機能を実際に理解するとともに、子ども・利用者と生活を共にし、保育者の援助や関わりを理解し、記録する。 保育者の援助や関わりを模倣し、子ども・利用者への理解を深め、指導の下、保育士の業務内容を体験する。 レクリエーションの計画・実践等も可能な限り経験する。 職員間の役割分担・連携や職業倫理について学ぶ。	1 後	90	2	○	○	○	○
53	○	保育実習指導ⅠA	実習の意義・目的、内容、日誌の書き方を理解する。 2学年の「保育実習指導Ⅱ」「幼稚園教育実習」との合同学習を通して、実習の流れ、内容、計画・実践をより保育の現場に近い形で学ぶ。	1 通	30	1	○	○	○	○
54	○	保育実習指導ⅠB	テーマを決めて取り組む演習を通して、施設実習の目的と内容を理解する。実習に行く施設及び利用児者の理解、保育士の支援など必要な知識・技術を身につけるとともに、実習に向かうための態度や記録、必要な書類について理解し、円滑な実習が行えるようにする。	1 通	30	1	○	○	○	○
55	○	保育実習Ⅱ又はⅢ	保育者の職務を観察、模倣することを通して、保育所の役割や機能について理解を深め、日誌やエピソード記述を通して子どもの観察や関わり方を明確にし、保育を理解する。 養護と教育を一体的に行う保育、送迎後の保護者と保育者との様子を観察し、子育て支援について理解する。 部分実習・責任実習を通じて、指導計画の作成・実践・観察・記録・評価を行う。 実習を振り返り、自己の課題を明確化する。	2 前	90	2	○	○	○	○

56	○			保育実習指導 Ⅱ又はⅢ	<p>保育実習Ⅰの経験を振り返り、自己評価・課題を明確に持ち学ぶ。</p> <p>保育実習Ⅱ(後半)の実施に向け、日誌・エピソード記録・指導案の作成等を具体的に学ぶ。</p> <p>保育実習に向けて模擬指導等を体験し、簡単な玩具やグッズ作りを積極的に実践し合う。</p> <p>実習の総括・自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p>	2 前	30	1	○	○	○	○				
----	---	--	--	----------------	---	--------	----	---	---	---	---	---	--	--	--	--

57	○		保育実践演習	指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が修得、形成されたか自らの学びを振り返り確認する。保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められていることは何かを考察する。	2通	60	2		○	○	○	○	○
58	○		英語コミュニケーション	日常的な話題について話したり、発表したりする活動を通して、オーラルコミュニケーションスキルを身につける。英語活動の実践を通して、児童に対して英語活動を行う際に必要なスキルを身につける。	1前	30	2		○	○			○
59	○		情報技術	パソコン操作の基本からスタートし、パワーポイントによるプレゼンテーションの基礎を習得を中心に、文書作成、表計算の基礎、作成したデータの保管・共有・運用ができるように演習を行う。	1前	30	2		○	○	○		
60	○		体育講義	身体のしくみと運動のしくみについて学ぶと共に、運動やスポーツが我々の生活にもたらす効果を体感し、生涯にわたってスポーツに親しむ素地と健康で明るい生活を送る姿勢を身につける。運動のしくみや基礎的技能に対する理解を深めると共に積極的に体を動かす楽しさを味わう。	1前	15	1	○		○	○		
61	○		体育実技	「身体のしくみ」や「運動のしくみ」に対する理解を深め、ケガや事故に気をつけて安全に運動できる環境づくりを心がけ、生涯にわたって運動に親しむ態度を培う。体ほぐしの運動や自分でできる体幹トレーニングを経験し、実際に動く体づくりについて考え、日常生活に取り入れる意欲を持つ。	1通	45	1		○	○	○		
62	○		日本国憲法	子どもの「教育を受ける権利」など、子どもに関する法的テーマについて考える。憲法との関わりを意識しながら、私たちの日常生活にかかわる法制度について理解を深める。	1後	30	2	○		○			○
合計				62科目	2,545単位時間(119単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>こども環境科を卒業するには、専門課程に2年以上在学し、別表に定める所定の科目を履修し、最低79単位以上を取得し、かつ次の(1)または、(2)の規定する所定の科目を履修した者には専門士の称号を授与し、卒業証書を授与する。</p> <p>(1) 幼稚園教諭2種免許状を受けようとする場合には、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び同法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める別表の科目の必要単位数を取得しなければならない。</p> <p>(2) 保育士となる資格を取得するためには、平成30年4月27日厚生労働省告示第216号に定める別表の科目の必要単位数を取得しなければならない。</p>		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	21週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。